

## 札幌交響楽団による素晴らしい 芸術鑑賞会でした！！

7月6日（水）の午後に、142年の遺愛史上初めて、フルオーケストラを遺愛アリーナにお招きし、芸術鑑賞会を開催しました。2年以上前に、遺愛PTAの高橋前会長・小田原前母の会会長の発案があり、井上教頭先生、水田先生のご尽力のおかげで、実現できました。本当に素晴らしい演奏会でした。生徒の皆さん785名、教職員約65名、保護者・同窓生約210名が演奏を満喫しました。

特に感動したのは、遺愛音楽教師の白須朋子先生のソプラノ独唱でした。プッチーニ歌劇「ジャンニ・スキッキ」より“O mio babbino caro”をマイクなしで、しかも、あの大きなアリーナで札幌をバックに堂々と歌い上げたことです。白須先生は遺愛を卒業後、東京芸術大学や武蔵野音楽大学にて音楽を専攻。そしてイタリア・ミラノ音楽院にて研鑽を積み、現在は、遺愛の教師を勤めながら、精力的に音楽活動をしています。授業では教わっていても、白須先生の歌をきちんと聴いた生徒は数少なく、透きとおった美しい歌声を初めて聞いて、本当にビックリしていたようでした。遺愛在学中は、ソフトテニス部のエースでした。

オープニングの御挨拶でも触れましたが、札幌には25年以上の長い間、第一バイオリンを担当していた遺愛の卒業生・石原ゆかりさん（K32回生）がいらっしゃいました。予定では今回、母校に来てくれるはずでしたが、ご病気のために53歳の若さで2014年12月8日にご逝去されました。その彼女の思いも込めながら、札幌の皆さんは、心を込めて演奏をして下さいました。指揮者の円光寺雅彦さんは皆さんの聴く態度がとても素晴らしかったと褒めて下さり、また、ぜひ来て演奏したいとのことでした。

2016年7月7日（木）

